

平成23年度墨田区予算案発表資料(平成23年1月31日)  
～水と歴史のハーモニー～ 人が輝く いきいき すみだ

緊急経済対策 平成23年度墨田区緊急経済・雇用対策

豊かな区民生活を創造するために優先的に実施する主な施策

安心して子育てができるまちをつくるための施策

子育て支援(待機児童解消等)の推進(1-1)

安全・安心なまちにするための施策

学校施設の耐震化(1-2)

バリアフリー・耐震改修の支援(1-3)

高齢者がいきいきと暮らせるまちにするための施策

地域密着型サービス施設の整備(1-4)

大都市・小規模ケアハウス(都市型軽費老人ホーム)の整備(1-5)

高齢者みまもり相談室の整備(1-6)

区民と墨田区が協働で「すみだ」をつくるための施策

墨田区基本計画の改定(1-7)

協治(ガバナンス)の仕組みづくり(1-8)

「25万人の都市経営」を着実に推進していくための施策

「すみだ」らしさの息づくまちをつくる

「すみだ 北斎美術館」の整備(2-1-1)

錦糸公園の再整備(2-1-2)

地域で快適に暮らせる「すみだ」をつくる

民間木造賃貸住宅改修の支援(2-2-1)

高齢者向け優良賃貸住宅への支援(2-2-2)

曳舟駅周辺地区の整備(2-2-3)

東武伊勢崎線(曳舟駅～業平橋駅間)立体化の推進(2-2-4)

京成押上線立体化の推進(2-2-5)

新しい事業が起き、人が集まる「すみだ」をつくる

商業活性化すみだプログラムの推進(2-3-1)

大学誘致の推進(2-3-2)

安心して暮らせる「すみだ」をつくる

防災・防犯

主要生活道路沿道の木造住宅耐震改修の助成(2-4-1)

安全・安心まちづくりの推進(2-4-2)

(仮称)安全・安心ステーションの設置(2-4-3)

## 高齢者・障害者

(仮称)すみだ障害者就労支援総合センターの開設(2-4-4)

すみだハート・ライン21事業等の拡充(2-4-5)

## 健康

がん対策の充実(2-4-6)

小児用肺炎球菌ワクチン予防接種の助成(2-4-7)

## 教育

小・中学校の土曜授業の実施(2-4-8)

学力向上「新すみだプラン」の推進(2-4-9)

幼小中一貫教育の推進(2-4-10)

## 環境

地球温暖化対策の推進(2-4-11)

## 協治(ガバナンス)・協働で「すみだ」をつくる

「すみだ やさしいまち宣言」の推進(2-5-1)

地域プラザの整備(2-5-2)

## 東京スカイツリー開業にともない地域を活性化させるために実施する主な施策

### 観光施策

国際観光都市の推進(3-1)

(仮称)観光プラザの整備(3-2)

「GTS観光アートプロジェクト」の推進(3-3)

水都すみだの再生に向けた舟運の活用(3-4)

観光誘客キャンペーンの実施(3-5)

### 産業施策

地域ブランド戦略の推進(3-6)

「SKYプロジェクト」の推進(3-7)

空き店舗を活用した回遊拠点の設置(3-8)

### 防災施策

新たな防災の拠点「タワー危機管理ベース」の整備(3-9)

### 周辺環境の整備

北十間川水辺空間の整備(3-10)

東京スカイツリー周辺主要道路の景観整備(3-11)

(仮称)押上駅前自転車駐車場の整備(3-12)

大横川親水公園の歩行者空間再整備(3-13)

区内循環バスの導入(3-14)

## 平成 23 年度墨田区緊急経済・雇用対策

### 経済対策

#### 商工業融資の充実

経営安定資金に係る信用保証料の全額補助の継続(平成 24 年 3 月末受付分まで)  
(借入れ期間 6 年・据え置き 12 ヶ月・利率 2.0% 補助率 1.8%)

148,073 千円

### 国等の緊急経済対策関連補助金を活用して実施する事業

消費者センター事業(地方消費者行政活性化交付金:都)

- ・消費者行政の普及啓発の強化
- ・消費者センター相談体制の充実

13,956 千円

地域密着型サービス整備事業(介護基盤緊急整備:都)

- ・認知症高齢者グループホーム等の整備

270,900 千円

### 雇用対策

#### 雇用促進就労支援事業

- ・東京スカイツリーに関連した区民の雇用拡大のための調整
- ・若者の就労支援(個別相談、セミナーの開催 等)
- ・インターネットを利用した求人・内職情報の提供
- ・墨田区トライアル雇用促進奨励金

19,603 千円

(仮称)すみだ障害者就労支援総合センターの開設

180,903 千円

#### 介護人材育成促進助成事業

- ・「介護技術講習会」または「介護職員基礎研修」の受講料一部助成

2,600 千円

#### 住宅手当緊急特別手当交付事業

- ・離職者に対して、住宅手当を支給:補助率 10/10

58,087 千円

緊急雇用創出事業

・国の緊急雇用関連補助金を活用し、雇用創出効果の高い委託事業等を実施する

105,520 千円

補助金名	事業名	予算額 (千円)
緊急雇用創出 補助金(国)	路上喫煙等防止対策パトロール(曳舟駅周辺地区及び本所吾妻橋駅周辺・浅草通り沿道地区)【23年度拡充】	5,850
	地デジ放送区民相談窓口	7,402
	地デジ訪問説明・受信確認・機器取り付け支援	14,559
	保育園施設修繕・縫製作業巡回事業	5,428
	建築申請受付簿台帳の入力【23年度新規】	1,218
	新タワー周辺地区特別警備事業【23年度拡充】	6,160
	図書館の管理用ICタグの貼付及びエンコード作業の業務委託	35,352
	郷土写真・ネガのデジタル化委託【23年度新規】	20,150
学校図書室の整理業務の委託【23年度新規】	2,376	
ふるさと雇用 再生基金(国)	公園警備の拡充(24時間警備)	7,025

合計 799,642 千円

1 - 1

件 名	子育て支援（待機児童解消等）の推進
予 算 額	220,471千円
主 旨	<p>本区は「墨田区保育園待機児童解消を目指す緊急3ヵ年計画」に基づく取組み等により、保育所整備率(就学前児童数に対する保育定員数の割合)はすでに40%を超え、23区中トップである。</p> <p>しかし、保育ニーズは増加傾向にあることから、私立保育園の誘致や増改築への支援により保育定員の拡大等を図るなど、待機児童の早期解消に向けたさらなる取組みを推進する。</p> <p>また、パートタイム等の短時間就労や在宅子育て家庭の保護者の多様な実態に合った保育や子育て支援の環境を整備することにより、子育て支援サービスの充実を図る。</p>

1 - 2

件 名	学校施設の耐震化
予 算 額	2,671,089千円
主 旨	<p>学校施設は、児童・生徒が1日の大半を過ごす「生活の場」であると同時に、大震災等の際に、地域住民が一時的に生活する避難所の役割を果たすことから、安全性を備えていることが必要である。</p> <p>そこで、以前の旧耐震基準で建てられた小・中学校の校舎・屋内運動場の改築・耐震補強を引き続き順次実施する。</p>

1 - 3

件 名	バリアフリー・耐震改修の支援
予 算 額	19,529千円
主 旨	<p>墨田区では、平成22年度に住宅マスタープランの改定を行い、区民が安心して住み続けられる住まいの整備を促進することを目的に、バリアフリー改修等福祉関連の住宅改修を行う方が、耐震改修をあわせて利用する場合に耐震改修の助成率を割り増す制度を新たに創設し、住宅を改修しやすい環境を整備するとともに、さらなる耐震化の促進を図る。</p>

1 - 4

件 名	地域密着型サービス施設の整備
予 算 額	482,825千円
主 旨	<p>墨田区では、平成23年1月4日現在、65歳以上の高齢者は53,013人を数え、総人口に占める割合は21.2%となっている。今後も高齢者の人口は増加傾向にあり、これまで以上に高齢者の介護サービスに対する需要が高まっていくことが予想される。</p> <p>このような状況の中、介護を必要とする高齢者が、住み慣れた地域で24時間・365日体制の介護サービスに支えられながら、安心して暮らし続けられる環境を整備するため、民間事業者が行う地域密着型サービス（認知症高齢者等が住みなれた身近な地域での生活を継続できるように支援するサービス）施設の整備事業を支援し、地域密着型サービス提供体制の充実を図る。</p>

1 - 5

件名	大都市・小規模ケアハウス (都市型軽費老人ホーム)の整備
予算額	120,270千円
主旨	<p>現在、東京都など都市部において所得の低い高齢者向けの住宅の不足が大きな社会問題となっている。</p> <p>この状況を改善するため、国が平成22年4月に従来の軽費老人ホームの基準を大きく緩和した「都市型軽費老人ホーム( )」を創設したことから、東京都は「都市型軽費老人ホーム」整備費の補助事業を平成22年度からの3ヵ年計画で開始した。これらを受けて、本区においても、平成22年度から「都市型軽費老人ホーム」の整備事業を実施しているが、平成23年度においても引き続き推進する。</p>

1 - 6

件名	高齢者みまもり相談室の整備
予算額	87,800千円
主旨	<p>高齢化が進んでいる中、認知症や閉じこもりなどの心配があるひとり暮らし高齢者等に関する相談が増加している。このため、区では、ひとり暮らし高齢者等が住み慣れた地域で安心して生活を続けられるよう、これまで区内2か所に「高齢者みまもり相談室」を整備してきた。平成23年度は、新たに6か所に「高齢者みまもり相談室」を開設し、民生委員をはじめ町会・自治会、老人クラブ、介護事業者と連携して、ひとり暮らしの高齢者等の安否確認・見守り体制を構築する。これにより、区内にある8か所の「地域包括支援センター」が担当する地域全てに「高齢者みまもり相談室」が設置され、区内全域で高齢者等の相談・支援体制が整備される。</p>

1 - 7

件名	墨田区基本計画の改定
予算額	8,157千円
主旨	<p>墨田区では、区の将来像を描いた「墨田区基本構想」を実現するために、平成18年度～平成27年度の10年間を計画期間とした「墨田区基本計画」を平成18年度に策定した。</p> <p>平成23年度は、この計画期間の中間年にあたり、後期5か年をより実効性のある計画とするために、平成24年春の東京スカイツリー開業や、平成22年度に人口25万人を達成したことなどを踏まえて、内容の見直しを行う。</p>

1 - 8

件名	協治（ガバナンス）の仕組みづくり
予算額	6,609千円
主旨	<p>墨田区では、区民、地域団体、NPO、企業など多様な主体と連携して協治（ガバナンス）によるまちづくりを推進しており、平成23年4月1日には、協治（ガバナンス）によるまちづくりのルールである「墨田区協治（ガバナンス）推進条例」を施行する。この条例をもとに、協治（ガバナンス）によるまちづくりを実践に移すため、その担い手となる人づくり・つながりづくりの一環として「(仮称)ガバナンスリーダー」を養成する。また、町会・自治会等、すみだならではの地域の魅力アップをガバナンスの視点から支援する「地域コミュニティ活力再生事業」に取り組む。</p>



2 - 1 - 1

件名	「すみだ 北斎美術館」の整備
予算額	707,334千円
主旨	<p>世界的に有名な絵師・葛飾北斎（1760年～1849年）は、本所割下水（現在の墨田区亀沢付近）に生まれ、90年の生涯のほとんどを墨田区とその近辺で過ごした。</p> <p>このことから、墨田区では葛飾北斎の偉業を区民の誇りとして永く顕彰するとともに、新たな文化創造の拠点ともなる「すみだ 北斎美術館」の整備を進める。この施設は、東京スカイツリーとともに、本区が進める国際観光都市づくりの新たな観光の核ともなるものである。</p> <p>平成23年度は、建築等の工事に着手するほか、開館に向けた準備やPR活動を推進する。</p>

2 - 1 - 2

件名	錦糸公園の再整備
予算額	311,000千円
主旨	<p>錦糸公園（錦糸四丁目15番1号）は、昭和3年に開園して以来、児童の遊び場やスポーツの拠点、イベント会場等として広く区民に親しまれている。しかしながら、開園からかなりの時間が経過し、公園を取り巻く環境も大きく変化したため、時代の変化に適應し、今後区民はもとより来街者にも利用されるような本区の「顔」と言える公園とすることが求められてきた。</p> <p>そこで、副都心錦糸町の魅力を高め、人々により一層快適で心地よい公園にするために、平成15年度に策定した「錦糸公園再整備基本計画」、及び平成17年度に策定した「錦糸公園施設基本計画」に基づき、平成21年度から、墨田区総合体育館や、平成23年4月オープン予定の区内初の人工芝を備えた新野球場の整備と連携して再整備を行ってきた。</p> <p>平成23年度は公園中央部の再整備を行い、年度末のリニューアル完了を目指す。</p>

2 - 2 - 1

件 名	民間木造賃貸住宅改修の支援
予 算 額	8 , 0 1 3 千円
主 旨	<p>墨田区では、高齢化が進み一人暮らしの高齢者世帯が増えることが予想される状況に加えて、区の民間木造賃貸住宅は持ち家に比べてバリアフリー化率が低く、老朽化が進んでいる状況である。</p> <p>そこで区では、高齢者が安心して暮らせる環境づくりのため、区内の民間木造賃貸住宅の家主に対してバリアフリー化等の改修費を一部助成し、居住環境の向上を図るとともに、そのバリアフリー化された賃貸住宅の空き住戸を高齢者に供給し、高齢者が民間住宅に入居しやすい環境を整備する。</p>

2 - 2 - 2

件 名	高齢者向け優良賃貸住宅への支援
予 算 額	3 1 , 3 1 8 千円
主 旨	<p>高齢化社会が進展する中、墨田区でも高齢者の一人住まいや高齢者のみ世帯が増加しており、高齢者が自立した日常生活を送れるために住み続けることのできる優良な住宅供給の必要性が高まっている。</p> <p>そこで、高齢者向けの優良な賃貸住宅を建設する際に、建設費用の補助や家賃補助等を行うことや、不燃化促進事業と連携することにより、高齢者向け優良賃貸住宅を提供する。また、既存の高齢者向け優良賃貸住宅において、家賃補助の拡充を行い、高齢者の居住の安定の確保を促進する。</p>

2 - 2 - 3

件名	曳舟駅周辺地区の整備
予算額	1,441,245千円
主旨	<p>曳舟駅周辺地区は、墨田区都市計画マスタープランにおいて「広域拠点」として位置づけられており、区北部地域の商業、業務、文化の拠点として中心的な役割を担うことが期待されている。</p> <p>この「広域拠点」の形成を目指すため、京成押上線の立体化事業と連携して、曳舟駅周辺の再開発事業を推進し土地の高度利用を図るとともに、商業、業務機能と都市型住宅の供給をバランスよく配置した複合市街地を形成し、活力と魅力があるまちづくりの推進を図る。</p> <p>これまでに、京成曳舟駅前東第一地区（平成19年2月整備完了）、曳舟駅前地区（平成22年1月整備完了）について整備を行っており、平成23年度は、京成曳舟駅前東第二・第三地区において整備を行う。</p>

2 - 2 - 4

件名	東武伊勢崎線（曳舟駅～業平橋駅間）立体化の推進
予算額	30,800千円
主旨	<p>墨田区では、東京スカイツリーの建設に伴い来訪者の増加が見込まれる押上・業平橋駅周辺地区を、安全・安心で環境にやさしい観光拠点として、また、区の中心部にふさわしい「広域総合拠点」として整備を図っている。</p> <p>この一環として、東京スカイツリー付近にある東武伊勢崎線2号踏切の除却を含め、曳舟駅～業平橋駅間の鉄道立体化を図り、同地区周辺の交通基盤の整備を推進する。</p>

2 - 2 - 5

件名	京成押上線立体化の推進
予算額	474,074千円
主旨	<p>現在、京成押上線の押上駅～八広駅区間は、踏切による渋滞・事故の発生をはじめとして、地域が分断された状態になっている。</p> <p>そこで、踏切による慢性的な交通渋滞を解消し、鉄道・道路それぞれの安全性の向上を図るために、鉄道と道路を立体交差化させ、踏切を除去する。また、高架化された鉄道に沿って環境の保全と円滑な地域内交通の確保を図るために側道を整備する。</p> <p>これらのことにより、これまで鉄道で隔てられていた地域の一体化を実現し、沿線まちづくりの推進を図る。</p>

2 - 3 - 1

件名	商業活性化すみだプログラムの推進
予算額	18,000千円
主旨	<p>区内商店街は、消費者ニーズの変化や大型店の進出等により商業環境が大きく変化する中で、後継者不足や転廃業の増加など厳しい状況に置かれている。このため、区では平成19年3月に策定した「商業活性化すみだプログラム」に基づいた取組みを進めており、平成23年度は、押上・業平橋地区を中心に、両国地区、吾妻橋地区、曳舟地区および北部地区での事業を積極的に展開していく。</p>

2 - 3 - 2

件名	大学誘致の推進
予算額	9,088千円
主旨	<p>大学は、若者の流れを呼び込む核となる施設であり、また、地域の賑わいを創出し、地域経済・商業の活性化、大学の知識・技術を活かした産学官連携、公開講座など、区民への生涯学習の提供や文化活動等を促進させることが期待できる。</p> <p>そこで、墨田区では、東京スカイツリーの開業で活性化が期待される押上・業平橋地区に隣接する旧曳舟中学校（文花一丁目18番6号）跡地と旧西吾孺小学校（文花一丁目20番7号）跡地、合計約17,900㎡の土地を一体で有効活用し、大学を誘致する。</p>

2 - 4 - 1

件名	主要生活道路沿道の木造住宅耐震改修の助成
予算額	9,200千円
主旨	<p>地震等の災害時に、主要生活道路沿道の木造住宅が倒壊した場合、主要生活道路が道路としての機能を果たすことが困難となり、避難や救急活動に大きな支障を来す可能性がある。</p> <p>そこで、現状の道路機能を維持し、一時集合場所までの避難路や救命活動を行う際の通行を確保することを目的に、区が指定した主要生活道路沿道（緊急対応地区内）の木造住宅に対して、現行の助成率を見直し、耐震化を促進する。</p>

2 - 4 - 2

件名	安全・安心まちづくりの推進
予算額	15,000千円
主旨	<p>近年、区内の犯罪発生件数は減少傾向にあるものの、凶悪事件等がテレビや新聞で多数報道されていることから、体感治安の悪化が懸念されている。このため、これまで区では、犯罪を未然に防止し、「安全・安心なまち すみだ」を実現するため、モデル地区を指定し、街頭犯罪が発生しにくい環境を整備してきた。これらに加え、平成23年度は、「地域連携治安改善サポート事業」を実施し、防犯設備の設置助成を行うとともに、地域住民による自主防犯活動を促進し、防犯意識の向上を図る。</p>

2 - 4 - 3

件名	(仮称)安全・安心ステーションの設置
予算額	21,910千円
主旨	<p>平成24年の東京スカイツリー開業により、東京スカイツリー周辺には多くの観光客が訪れることが予想される。このことに加え、土地区画整理のため押上駅前交番(押上一丁目10番1号)が移転することから、地域住民の体感治安の低下が大きな課題となっている。そのため、地域の防犯拠点として区が運営する「(仮称)安全安心ステーション」を設置し、警察と連携をとりながら地域の安全と安心の確保を図る。</p>

2 - 4 - 4

件 名	( 仮称 ) すみだ障害者就労支援総合センターの開設
予 算 額	1 8 0 , 9 0 3 千円
<p><b>主 旨</b></p> <p>障害者が地域において経済的・社会的に自立し、安定した生活を送るためには、企業就労、在宅就労、起業等の機会拡大や就労定着の支援が重要である。そこで区では、平成24年1月に旧本所授産場跡地（緑四丁目25番）に、区の総合コーディネート力やネットワーク力を基盤とし、民間法人がもつ専門性や機動力を最大限に活かした「(仮称)すみだ障害者就労支援総合センター」を開設し、障害者自らが希望する職に就き、働き続けられるように支援する体制づくりを目指す。</p> <p>また、平成24年は、東京スカイツリーの開業年にあたることから、東京スカイツリー及び関連企業等への就職をめざした就労支援策にも本格的に取り組み、障害者の就労機会拡大及び職域拡大の契機としていく。</p>	

2 - 4 - 5

件 名	すみだハート・ライン21事業等の拡充
予 算 額	1 , 8 9 0 千円
<p><b>主 旨</b></p> <p>現在、墨田区社会福祉協議会では、会員制の住民参加型在宅福祉サービス「すみだハート・ライン21事業」及び単発的な要望に対応する「ミニサポート事業」を実施しており、多くの区民に利用されている。しかし、利用者から、通院や冠婚葬祭、余暇活動にもサービスを利用できるように利用時間を拡大してほしいとの声が多く寄せられており、このようなニーズに応えるため、平成23年度から、「すみだハート・ライン事業」と「ミニサポート事業」の利用時間を休日や早朝、夜間まで拡大し、サービスの向上を図る。</p>	

2 - 4 - 6

件名	<b>がん対策の充実</b>
予算額	367,208千円
主旨	<p>国及び都の「がん対策推進計画」では、平成24年度までに、がん検診の受診率50%以上を目標として掲げている。区においても、平成21年11月に「墨田区がん対策基本方針」を策定し、がん予防の取組みを推進しているが、「がんによる死亡者数」は増加傾向にあり、がんの早期発見・早期治療のため検診の受診率向上と定期的な受診の促進を一層進めていく必要がある。このため、平成23年度は、同基本方針に基づき、区民の生活習慣の見直しや意識改革を図るとともに、各種がん検診の受診勧奨を強化していく。また、新たに子宮頸がんの予防のためのワクチン接種の費用助成を実施するとともに、検診に関する正しい知識の普及・啓発を実施し、子宮頸がんによる死亡者の減少を目指す。</p>

2 - 4 - 7

件名	<b>小児用肺炎球菌ワクチン予防接種費用の助成</b>
予算額	19,172千円
主旨	<p>肺炎球菌は、乳幼児に細菌性髄膜炎等の重篤な感染症を引き起こす主な起炎菌とされている。このため、WHO（世界保健機構）では、この菌による感染症を予防する小児用肺炎球菌ワクチン予防接種を、乳幼児への定期接種とするよう勧告しており、現在、当該予防接種は世界約100カ国で実施されている。</p> <p>日本においても平成22年2月から当該ワクチンの販売が開始されたが、当該予防接種は任意接種であることに加えて、接種回数が多く、接種費用が高額となっている。このため、墨田区では、乳幼児の死亡率低下・罹患予防を目的に、小児用肺炎球菌ワクチン予防接種費用の一部を助成する。</p>



2 - 4 - 8

件 名	小・中学校の土曜授業の実施
予 算 額	69,841千円
主 旨	<p>児童・生徒の学力低下が問題となる中、学習内容を充実させた新学習指導要領が、小学校で平成23年度から、また中学校で平成24年度から完全実施される予定である。このため、授業時間数の確保等を目的として、東京都は土曜授業を認める方針を示している。</p> <p>これらを受け、墨田区では平成23年度から「土曜授業」を実施し、確かな学力の定着と心の教育の充実を目指す。</p> <p>「土曜授業」では、授業の公開、地区公開講座やセーフティ教室の実施、地域住民等をゲストティーチャーに招いての教育活動などを展開し、開かれた学校・特色ある学校づくりの一層の推進を図る。あわせて、「すみだ やさしいまち宣言」のコンセプトを踏まえた心の教育の充実を図る。</p>

2 - 4 - 9

件 名	学力向上「新すみだプラン」の推進
予 算 額	49,822千円
主 旨	<p>墨田区の子どもたちに「確かな学力」を身に付けてもらうため、区では「開発的学力向上プロジェクト」を立ち上げ、学校・家庭・地域の総合的な教育力を向上させるための取組「学力向上『新すみだプラン』」を策定し、様々な施策を展開してきた。</p> <p>これまでの取組みにより基礎学力の定着に一定の効果が現れているが、さらなる学力の向上を図るため、平成23年度は協治（ガバナンス）を視野に入れ、地域の人材を活用した「すみだSST(School-Support-Teacher)養成講座」の実施、「放課後学習クラブ事業」の拡充など取組みの充実を図る。</p>

2 - 4 - 1 0

件 名	幼小中一貫教育の推進
予 算 額	17,624 千円
主 旨	<p>学校教育では、いわゆる「小1問題」や「中1ギャップ」など、学校間のつなぎ目で児童・生徒が学校生活や学習面で不適應を起こすなどの問題が生じている。</p> <p>これらの問題に対応するためには、幼児期から小学校、中学校を円滑に接続し、一人ひとりの発達に応じたきめ細かい教育を系統的・計画的・継続的に行うことが有効である。このため、墨田区では、平成18年度から、すみだらしい「幼小中一貫教育」の在り方について実践的研究に取り組んでいる。</p> <p>こうした取組みにより一定の効果が現れていることから、平成23年度は、幼稚園や保育園、小・中学校間の連携体制を整備し、教育課程面での連続性を深め、学習指導・生活指導を充実・改善するために「すみだ幼小中一貫教育推進計画」を策定する。また、「幼小中一貫教育」を確実に推進するために、本区独自の非常勤職員「一貫教育推進教師」を増員するなど、より一層「幼小中一貫教育」を推進していく。</p>

2 - 4 - 1 1

件 名	地球温暖化対策の推進
予 算 額	45,517 千円
主 旨	<p>墨田区では、地球温暖化防止をはじめとする区民・事業者の環境への関心の高まりを環境にやさしい実践行動の普及に結び付けることを目的として、平成21年10月に「すみだ環境区宣言」を行った。環境区宣言の行動指針には、主要目標として、温室効果ガス排出量のより一層の削減を掲げており、平成23年度は、従来から実施している「地球温暖化防止設備導入助成事業」を拡充するとともに、行動指針の普及・浸透を図るため、エコポイント事業を創設する。墨田区商店街連合会発行の「すみぽカード」を活用し、節電等によるCO2削減など省エネ行動に対してエコポイントを付与することにより、家庭などから排出されるCO2を削減するとともに、区内商店街の活性化にもつなげる。</p>

2 - 5 - 1

件名	「すみだ やさしいまち宣言」の推進
予算額	4,069 千円
主旨	<p>墨田区では、「人」と「地域」と「環境」にやさしいまちづくりを目指し、平成12年7月に「すみだ やさしいまち宣言」を行い、10周年を迎えた平成21年度には「行動指針」を改定し、区民との協働による様々な実践活動に取り組んできた。</p> <p>平成23年度は、次世代を担う小中学生がすみだの未来に夢をもち、国際観光都市にふさわしい、やさしいまちづくりを担う人材として行動できるよう、小学生向けの「やさしいまちワークブック」（平成22年度作成）の普及・浸透に努めるとともに、中学生自身が考える「(仮)わたしたちのアクションプラン」づくりに取り組む。</p>

2 - 5 - 2

件名	地域プラザの整備
予算額	614,286 千円
主旨	<p>これからの公共施設は、区民の価値観やライフスタイルの変化、地域における課題の変化などに対応し、協治（ガバナンス）を実現するための拠点としての役割が求められている。</p> <p>そこで、区民が地域活動や地域交流を行うのに適したコミュニティ活動の拠点として、地域プラザを整備する。</p> <p>平成23年度は、平成19年度に着手した旧第五吾孺小学校の跡地（八広四丁目35番17号）について、施設整備工事及び管理・運営方針の検討を行い、平成21年度に着手した旧本所一丁目出張所の跡地（本所一丁目13番4号）については、実施設計、既存施設の解体工事、管理・運営方針の検討を行う。</p>

3 - 1

件名	国際観光都市の推進
予算額	186,360千円
主旨	<p>東京スカイツリー建設に伴う観光客の増加を受け、墨田区では、東京スカイツリー開業前の前年となる平成23年度、本区の観光振興の基本戦略である「街歩き観光」を推進するための整備を一層強化する。</p> <p>具体的には、歩行者の案内性や回遊性を高める施策と、街歩きのきっかけとなる魅力ある仕掛けづくりを複合的に行うとともに、すみだの魅力を全国に発信するプロモーション活動を積極的に行い、東京スカイツリー開業へ向けて地元の雰囲気盛り上げていく。</p>

3 - 2

件名	(仮称)観光プラザの整備
予算額	275,000千円
主旨	<p>東京スカイツリーの開業により、本区には国内外から多くの来街者が訪れることが予測される。</p> <p>そこで、東京スカイツリーを訪れる人々にすみだの特色と魅力を発信し、区内を広く回遊していただくために、区内の産業・文化・歴史・観光等を堪能・体感できる機能を有した国際観光の拠点となる「(仮称)観光プラザ」を東京スカイツリー街区内に整備し、運営を行う。</p>

件名	「GTS観光アートプロジェクト」の推進
予算額	18,000千円
主旨	<p>墨田区では、観光振興の基本戦略として、「観光拠点エリア」及びそれをつなぐ「周遊軸」の形成によって、「国際観光都市すみだ」にふさわしい新しい観光ネットワークの構築に取り組んでいる。</p> <p>そこで、平成22年度から平成24年度までの3ヵ年計画で、東京藝術大学・台東区と連携し、アートを活用した東京スカイツリーのビュースポット創出や、アート展などによる国際的な芸術の発信地としての拠点を形成するために、「GTS（藝大・台東・墨田）観光アートプロジェクト」を推進している。平成23年度は、昨年度に引き続きアート作品の設置（2基）や音楽コンサート等を予定しており、事業を通じて、浅草から東京スカイツリーを結ぶ地域に、歩いて楽しめるアートによる街歩き環境を整備する。</p>

件名	水都すみだの再生に向けた舟運の活用
予算額	3,000千円
主旨	<p>かつて江戸随一の「水の都」と呼ばれた墨田区では、現在、隅田川や内部河川に面した水辺環境に恵まれている地域特性を活かした国際観光都市づくりを進めている。こうした中、東京スカイツリーを中心とした回遊性の高い観光施策を実現するためには、これらの河川を魅力ある観光資源の一つとして活用していくことが重要と考えている。</p> <p>そこで、江戸以来育まれてきた水の魅力を活かして隅田川や内河川の舟運を復興し、街歩き観光の新たなメニューとして、舟で観光を楽しむことができるという新たな魅力を加えることで、観光客の増加へとつなげていく。</p>

件名	観光誘客キャンペーンの実施
予算額	30,000千円
主旨	<p>東京スカイツリーは平成22年度末に634m到達、平成24年春に開業を予定しており、それぞれの時期で墨田区への国内外からの注目がピークに達すると想定される。</p> <p>そこで区では、平成23年度を「“国際観光都市すみだ”のまちびらき前夜」と位置づけ、来たるべき平成24年春の開業「まちびらき」に向けて、観光誘客キャンペーンを実施するとともに、東京スカイツリー開業時のイベントの開催準備を進める。全区を挙げてPRを連続的に実施し、まちを盛り上げていくことで「東京スカイツリーのある“国際観光都市すみだ”」の魅力を強力に発信していく。</p>

件名	地域ブランド戦略の推進
予算額	60,000千円
主旨	<p>東京スカイツリー開業前年の平成23年度はこれまで以上に墨田区に注目が集まることが予想されることから、その好機をとらえ、地域ブランド戦略事業（平成21年度開始）をさらに推進する。具体的には、平成22年度に引き続き、「すみだ地域ブランド推進協議会」において、「あたらしくある。なつかしくある。」というブランド価値規定に合致する、優れた商品や食品を、すみだブランド（すみだモダン）として認証し、発表する。</p> <p>また、平成23年度は情報発信を充実させ、認証商品のPRや販売支援、新商品開発支援等を通じて、すみだの魅力を区内外に積極的に発信し、すみだの地域ブランド力を高めていく。</p>

件名	「SKYプロジェクト」の推進 (SUMIDA KICK-OFF YEAR PROJECT)
予算額	39,000千円
主旨	<p>東京スカイツリーが開業する年(平成24年)は、墨田区にとって新たなキックオフの時といふべき年である。そこで、区では、開業に向け、区の産業や観光等に関わる団体等と協力して地域を活性化していく取組みを「SKY(SUMIDA KICK-OFF YEAR)プロジェクト」と名づけ、地域活性化のための取組みを推進している。</p> <p>平成23年度は、平成22年8月に開設した、すみだの優れた産品を展示即売する「すみだもの処」(業平二丁目15番5号)を活用し、開業前から墨田区に興味を持ってもらうための商品販売・企画事業等を行うとともに、どのような物が売れるのか検証し、区内産業の活性化につなげる。</p>

件名	空き店舗を活用した回遊拠点の設置
予算額	9,555千円
主旨	<p>東京スカイツリー開業により増加が見込まれる観光客など来街者が街歩きを楽しみ、商店街等の活性化を図ることができるように、空き店舗等を活用して、観光拠点、お休み処、地域住民のコミュニティの場となる回遊拠点の設置・運営補助を行う。設置及び運営は地元商店会が行い、区はそれを側面から支援する。</p> <p>平成23年度は、観光名所である浅草と東京スカイツリーの中間に位置する吾妻橋地区に回遊拠点を新たに開設し、平成21年8月に設置された回遊拠点「おしなりくんの家」(業平二丁目15番6号)のある押上・業平橋地区と併せて、来街者の区内回遊を積極的に促す。</p>

件名	新たな防災の拠点「タワー危機管理ベース」の整備
予算額	270,000千円
主旨	<p>東京スカイツリーが開業すると、墨田区には、大勢の観光客をはじめ、タワー街区に勤務する従業員等多くの人が集まることが予想される。このような状況の中で、大規模な災害が発生した場合、本区には、多くの帰宅困難者が発生することが想定される。このため、区では、東京スカイツリー周辺を新たな防災の拠点（以下、「タワー危機管理ベース」という。）として位置付け、高所カメラの設置、防災備蓄倉庫の整備、防災行政無線網の強化、防災活動スペースの整備等を行い、災害対応力や情報収集能力の向上を図り、災害被害の軽減及び平常時の安全安心まちづくりを推進する。</p>

件名	北十間川水辺空間の整備
予算額	875,385千円
主旨	<p>東京スカイツリーの建設を機に、江東内部河川の水辺空間を活かしたまちづくりと観光の推進を図るため、平成18年度に「北十間川水辺活用構想」を策定した。この構想に基づき、タワー街区の南側を流れる北十間川（東武橋～京成橋区間）を水辺拠点ゾーンとして、親水テラス、人道橋、船着場、水質浄化装置などの北十間川の河川環境整備を行う。また、南側に隣接する道路についても歩行者に配慮したコミュニティ道路として整備する。</p>



3 - 1 1

<p>件 名</p>	<p>東京スカイツリー周辺主要道路の景観整備</p>
<p>予 算 額</p>	<p>1,326,624千円</p>
<p><b>主 旨</b></p> <p>東京スカイツリーの完成後には、本区に多くの来街者が訪れることになり、周辺道路は観光バス等の大型車をはじめ、車両通行量の増加が予測される。</p> <p>そこで、言問通り、桜橋通り、(仮称)新タワー通りについて電線類の地中化を図り、安全な歩行空間の確保、良好な都市景観の創出、および都市防災機能の強化を目指す。</p> <p>さらに、周辺住民の意見を踏まえ、歩道の拡幅・カラー化・バリアフリー化や街路樹の植替え等を行い、車道の耐久性の向上を図るとともに、街歩き観光を楽しむ来街者の回遊性向上を目指す。</p>	

3 - 1 2

<p>件 名</p>	<p>(仮称)押上駅前自転車駐車場の整備</p>
<p>予 算 額</p>	<p>744,403千円</p>
<p><b>主 旨</b></p> <p>東京スカイツリーの開業により多くの利用者が想定される押上駅について、区では来訪者を迎える表玄関として魅力的な広場空間を確保するため、押上・業平橋駅周辺土地区画整理事業の一環として、駅前広場の整備を図っている。</p> <p>この整備に伴い、駅利用者の利便性・安全性の確保、押上駅周辺の放置自転車の解消、及び観光地としての安全な歩行者空間の形成を目的として、自転車駐車場を整備する。なお、自転車駐車場の屋上は東京スカイツリー観光をゆっくりと楽しめるようなスペースとして整備を進めていく。</p>	

3 - 1 3

件 名	大横川親水公園の歩行者空間再整備
予 算 額	202,500千円
主 旨	<p>大横川親水公園は、本所地区を縦断する長さ約1.8kmに及ぶ親水公園であり、錦糸町地区、両国地区から東京スカイツリーの街区に通じる重要な歩行者周遊ルートに位置づけられているが、平成5年に開園した同公園は、園路をはじめとする施設の老朽化が進んでいる。</p> <p>そこで、東京スカイツリーの建設に合わせ、園路等の改修やバリアフリー化、外国語を表記した案内看板等の再整備を行い、区民はもとより東京スカイツリーなどを訪れる観光客が、安全・安心に散策を楽しめるよう、魅力的な歩行者空間とする。</p>

3 - 1 4

件 名	区内循環バスの導入
予 算 額	50,921千円
主 旨	<p>東京スカイツリーの開業は、墨田区のまちの姿や住民の暮らしに大きな変化をもたらすことが予想される。</p> <p>区としてはこの機会を「国際観光都市 すみだ」へと大きく変貌させ、発展させる好機と捉え、東京スカイツリーを訪れる多くの観光客の区内回遊性の促進と、区民の生活利便性向上のため、新たに区内循環バスを運行し、「住んでよく、訪れてよいまち」実現への一助とする。</p>